

# 研究環境整備 御説明資料

**2019年12月16日**  
**經濟產業省**

## 令和元年度補正予算額 20.0億円

### 事業の内容

#### 事業目的・概要

- 産業技術総合研究所の人工知能処理向け計算インフラである「AI橋渡しクラウド（ABCI）」は、日本のAI研究開発を加速するオープンバージョンプラットフォームとして2018年8月より運用を開始しました。
- 運用開始から1年を経て、国内企業がABCIを活用して、深層学習における世界一の計算速度を達成するなど顕著な成果をあげており、多様な企業、大学、研究機関による利用が大幅に拡大しています。
- 他方で、想定を超える高い需要のため待ち時間が長く、円滑な利用に支障が出ています。また、大規模なデータ処理が必要となる先進的な応用実証には、現在の2倍以上の処理能力、機能拡充が必要です。
- そこで本事業により、ABCIの処理能力等の機能を拡張するため現行施設の増強を行い、先進的な応用実証や国内のデータ保有企業によるABCIの活用を加速し、AI分野での産業競争力の強化に貢献します。

#### 成果目標

- 本事業による研究拠点の整備後2年間で、国内の産学官による利用プロジェクトを500件以上、利用者を5,000人以上を目指します。

#### 条件（対象者、対象行為、補助率等）



### 事業イメージ

#### ◆人工知能に関する橋渡しインフラ拡張

ABCIは現在、企業を中心に1,000人以上のユーザが利用しています。2021年までに需要が処理能力を上回るのは確実です。高い需要に対応した円滑な活用と、先進的なAI応用実証の加速のために、現状のABCIと合わせて約2倍の処理能力と、高速アクセス可能なストレージを持つAI向け橋渡し計算インフラを整備します。

